“手”にまつわるトラブルの原因を究明し失われた機能の回復をめざします

手外科センター　医長　山﨑　哲朗

2022年4月から当院で勤務しております山﨑哲朗です。肘・手関節外科を専門として診療を行っております。

“手”は私たちにとって非常に重要な器官です。物をつかむ、摘まむ、ひっかけるというような動作を基本に、箸で食事をする、ペンで字を書く、包丁で調理をするなど様々な道具を使用して私たちの日常生活を成り立たせています。さらに私たちは“手”を用いて自分自身を表現します。絵を描くことで表現したり、書字やタイピングを通して文字で表現したり、楽器を用いて音で表現したり、ダンスや演劇では直接的に手の表情で表現することもあります。

このような機能を有している“手”の動きは極めて繊細であり、その動きを作り出す筋肉、骨格、腱や靭帯といった“手”の構造も同様に非常に繊細なものです。小さなケガであっても大きな機能の障害につながることもあります。

骨折や切創など怪我による損傷、関節変形による疼痛、神経障害によるしびれや脱力など“手”にまつわるトラブルに対して原因を究明して投薬、手術やリハビリテーションを行うことで、失われた機能を回復させることが私たちの使命です。

“手”のトラブルでお困りの際にはぜひ当院手外科外来をご受診、ご紹介ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

所属学会・認定医

◇日本手外科学会　専門医
◇日本整形外科学会　専門医
◇日本リウマチ学会

略歴

2008年　秋田大学医学部卒業
　　大津市民病院初期臨床研修
2010年　京都府立医科大学整形外科入局
2011年　京都府立医科大学大学院入学
2015年　京都府立医科大学大学院卒業
　　医学博士号取得
　　京都府立心障害者福祉センター附属
　　リハビリテーション病院
2017年　亀岡市立病院
2022年　十条武田リハビリ
　　テーション病院

山﨑 哲朗
プロフィール

患者サポートセンターから

このたび手外科の医師をあらたに迎え、手外科センターがさらに充実いたしました。骨折や腱鞘炎、手根管症候群などの手術から専門的なリハビリテーション、日常生活指導に至るまで、切れ目のない体制となっております。当院のリウマチセンター、骨粗鬆症外来、人工関節センターなど他領域とも連携し、何より地域の先生方と一緒に患者さんを支えていく考えです。今後ともよろしくお願いいたします。

患者サポートセンター
TEL 075-671-2523（直通）
FAX 075-671-2654（直通）
8:30～17:00　日曜日・祝日・祭日・年末年始除く

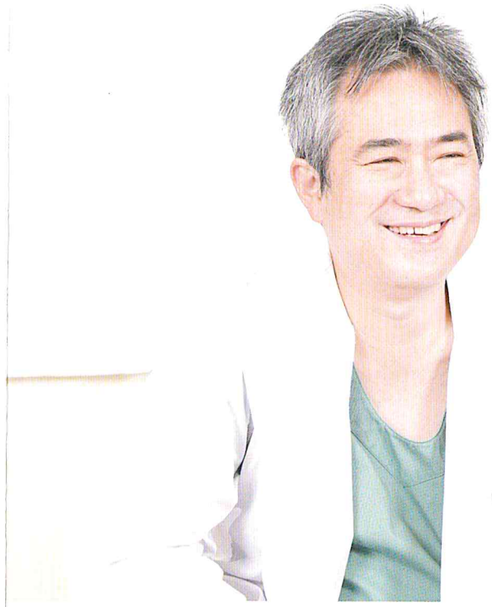
理念・基本方針

1.地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
2.プライバシーの尊重と心のふれあいを大切にし、利用される皆様患者さんとの良い信頼関係を築きます。
3.安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
4.私たちは、病院という生命に直接関わる職場に勤務することを自覚し、生きがいと誇りの人間性豊かな医療人をめざします。

十条武田リハビリテーション病院　　患者サポートセンター

医療法人財団 医道会
十条武田リハビリテーション病院
〒601-8325　京都市南区吉祥院八反田町32番地
TEL　075-671-2351（代表）　FAX　075-671-2961

地域連携情報誌「きづな」No.22　令和4年6月1日発行



専門性の追究とともに
身近なところで怪我・疾患に対応する
より地域を意識した医療をめざします

副院長・手外科センター長
河野 茂

きづな

地域連携情報誌　No.22

先生方との連携を促進させ地域医療の質の向上・患者さんの負担軽減につなげたい

2022年4月1日、副院長に就任した河野茂です。手外科センター長として、手を専門とする治療に長年取り組んでおり、京都市内においては当院を含めて2～3施設でしか行っていない手術を実施するなど、地域で高度かつ先進性の高い医療をご提供できるよう日々努力を続けています。

当院の専門外来では、手外科センターのほか人工関節センター、リウマチセンターなど、様々な領域で専門性を発揮しており、手術・投薬治療等はもちろんのこと、リハビリにおいてもそれぞれを専門とするリハビリの先生がおられるなど、極めて高度なリハビリテーションをご提供しています。

こうした専門性の追究を続けていく一方、地域に根差した病院として、皆さんの身近なところで怪我や疾患に対応するなど、安心ある地域環境づくりに貢献していきたいと考えています。

その一つの方向性となるのが地域医療連携の促進です。新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の先生方とは直接お会いする機会が比較的少なく、回線を通じた症例検討会・勉強会といった形式が多かったと思います。事態が改善されれば交流の機会を広げ、お互いの役割をうまく発揮できる連携を促進していきたいと考えています。例えば術後、一定のリハビリを終えた患者さんが、紹介元のお近くの先生のもとに戻って治療を続けるなど、患者さんのご負担・待ち時間を減らすことも考えられます。副院長就任を機に、これまで以上に地域を意識した医療、患者さんのご希望を大切にする医療のご提供に邁進する考えです。どうぞ宜しくお願いいたします。

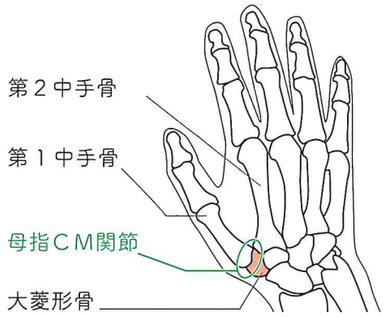
手外科特集

極めて繊細な手を専門に治療を行うのが、私たち「手の外科医」です。当院では２０１８年に手外科センターを設立し、現在では手の治療を専門とする医師３名、手を専門とするリハビリスタッフ（作業療法士）、看護師をはじめ多様な職種が一つのチームとなって、患者さんの機能回復や痛みをとるなどの治療を日々行っています。

40代以上で特に発症する方の多い「母指ＣＭ関節症」

親指の根本にある母指ＣＭ関節（図参照）の軟骨が摩耗したり、亜脱臼状態（ズレたり、外れかかること）になると、「物をつかむ」「瓶のふたを開ける」「包丁で何かを切る」など、親指に力のかかる動作で痛みを伴うようになります。これが母指ＣＭ関節症です。

40 歳以上、とくに閉経後の女性や、つまみ動作の多い職業の方が発症しやすいのが特徴です。また男性は、力仕事や怪我によって発症するケースがよくみられます。



保存的治療法

初期の場合は、「薬物療法」や固定装具を用いた「装具療法」を行います。

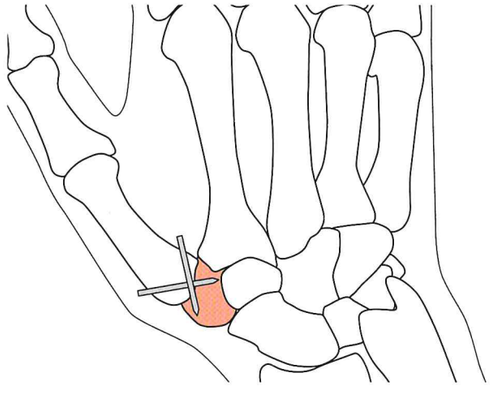
外科的治療法

関節の変形・脱臼が大きい場合など症状が強く、疼痛（強い痛み）を伴う場合は「外科的治療（手術）」を行います。手術には幾つもの方法・特徴がありますので、それぞれの特徴をご紹介します。

① 関節固定術

ＣＭ関節が動かないように鋼線で固定することで痛みをとる治療法です。親指の角度が制限されますが、手の力を維持できるので力仕事をされるなど活動性の高い患者さんに向いた治療法です。

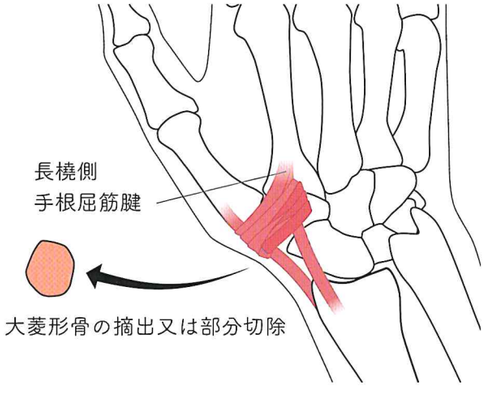
固定期間の目安：４～６週間



② 関節形成術

ＣＭ関節を安定させ痛みを軽減し可動域も保つ治療法です。骨同士が接触しないよう大菱形骨を摘出又は部分切除し、長橈側手根屈筋腱の半分を編み込むようにして挿入します。細かい作業をするなど、力仕事をされない女性や高齢の患者さんに向いた治療法です。

固定期間の目安：４～６週間



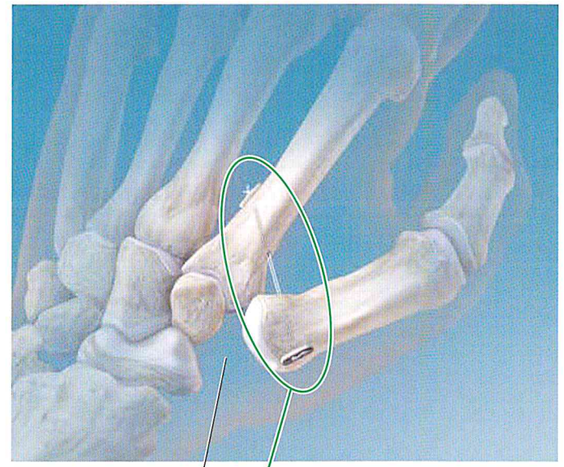
ミニタイトロープを用いたＣＭ関節形成術を行っています

ミニタイトロープを用いたＣＭ関節形成術は、高強度の医療用ファイバーワイヤー（人工靭帯）で関節を制動する新しい術式です。

大菱形骨を摘出するのは従来の CM 関節形成術と同様ですが、母指（親指）と第２指（人差し指）の中手骨をファイバーワイヤーで固定するのが大きな特徴です。

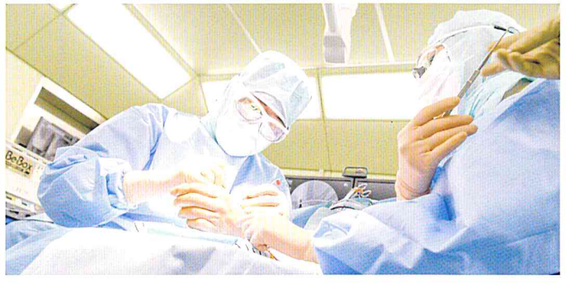
固定期間の目安：２～３週間

※従来の手術②では患者さん自身の別の健康な腱を剥がして固定に用います



術式解説

高度な施術の技能が必要となりますが、「つかむ力」や「可動域」を確保しつつ「早期に痛みをとる」など多くの点で、優秀な術式と言えます。

病状や年齢、リハビリテーションの実施内容など、個人差がありますので一概には言えませんが、実際に屈強な大工さんや宅配業者さんなど、力仕事をされる患者さんが、この手術を行ったあと、おおよそ元のレベルにまで回復され、お仕事への復帰を果たしています。

この術式を京都市内で行っているのは当院のほか、公的病院２施設だけ（2022 年 5 月時点）で、全国的にも実施施設が少ない状況です。質問などございましたら、是非、当院の手外科センターまでお問い合わせ下さいませ。